

バイオなどの新技術と学際的研究で循環的未来と地域貢献を

No.  
16

石川県立大学広報

2013.6

## 新学長 就任のご挨拶

石川県立大学 学長 熊谷 英彦

この4月から学長職に就きました。よろしくお願い申し上げます。

石川県立大学は、創立9年目のまだ若い大学です。それにも関わらず、すでに教育・研究面での成果を上げてきております。9年の間に、日本学士院賞を3名、紫綬褒章を1名の先生が受けております。科学研究費や省庁関係の外部資金の導入も年々増え続けておりますし、企業からの奨学寄付金も昨年度はその前の年の倍になっております。また、昨年度新しく寄附講座が開設されましたし、本年度さらにもう一つ開設の予定です。これらは、産学官連携による結果でもあり、これによりさらに連携が進みます。一方、昨年度の就職率は、99%であり、卒業生は、社会に出てそれぞれに活躍しています。



このように良いスタートが切れたのは、明るく清潔で広々としたキャンパス、新しく充実した施設と設備、そして、教育・研究に熱心な先生方に恵まれたからです。本学の学生数は大学院も含めて550名強ですが、教員は60数名おります。いわゆる少人数教育が行われ、学生たちは先生から身近に親しく教えを受け、研究に参加しています。大学生活の前半に主として行われる教養教育も、先生方の新しい工夫により充実しています。高校時代に充分履修し得なかった理科系科目の補講を目的とするリメディアル科目の開講、米国大学との学生交流による英語の実践型教育、学科を超えて早期に実験に携われるポケットゼミなどがあります。就職の支援、社会教育のためのキャリアセンターも今年度からスタートしております。

本学は、これまでのこのような実績を踏まえて、次のさらなる発展へ向かおうとしております。

## 本号の内容

新学長 就任のご挨拶	1	平成24年度プロジェクト研究実績発表会	4
平成24年度卒業式・学位授与式	2	最終講義	5
平成25年度入学式	2	親子体験講座「ひつじを知ろう!楽しく学ぼう!」	5
野口教授が飯島食品科学振興財団・技術賞を受賞	3	新任教員の紹介	5
学長賞授与	3	平成24年度卒業生の進路	6
谷内寛之君の研究が「サイエンス・インカレ」に採択	3	入試結果	6
石川県立大学寄附講座の紹介	4	大学の今後の動き	6
金沢大学及び野々市市との協定締結	4	編集後記	6

石川県公立大学法人

発行 石川県立大学広報委員会

みなさんのご意見をお待ちしています

ホームページ <http://www.ishikawa-pu.ac.jp/>

〒921-8836 石川県野々市市末松 1 丁目 308 番地

電話 / 076-227-7220 FAX / 076-227-7410

メール [jimu@ishikawa-pu.ac.jp](mailto:jimu@ishikawa-pu.ac.jp)

## 平成24年度卒業式・学位授与式



平成25年3月21日、本学5回目となる卒業式・学位授与式を行いました。卒業生122名（生産科学科41名・環境科学科37名・食品科学科44名）、大学院博士前期（修士）課程修了生25名（生産科学専攻3名・環境科学専攻5名・食品科学専攻12名・応用生命科学専攻5名）が卒業証書・学位記を授与されました。

### 松野前学長からの祝辞：

皆さん、それぞれ思う存分の力を発揮されて、晴れて卒業証書、修了証書を手になされました。深く敬意を表しますとともに、心からお祝い申し上げます。私は「謙虚」という言葉が好きです。心の中を「空」にする、心

の中に張り巡らされた「もやもやとした柵」を取り除くという意味を持つと思うのです。科学、技術の見たい、わかりたいの段階で謙虚が根源的に必要になります。判断しなければならないときにその結果の善し悪しはわからないものです。判断する時点で、心の中の柵を取り除くこと、すなわち「謙虚さ」は不可欠です。餞として「積極的な謙虚さをもって一途に」という言葉を送ります。

## 平成25年度入学式



平成25年4月5日、本学体育館において、138名の学部新生と17名の大学院新生（博士前期〔修士〕課程15名、後期〔博士〕課程2名）を迎え、本学9回目の入学式を行いました。

### 熊谷学長からの祝辞：

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。石川県立大学は、開学8年とまだ若く規模も小さな大学です。しかし、他大学に決して負けない新しい充実した教育研究環境を持っており、研究教育の実績は他の歴史ある大きな大学に決して負けるものではありません。本学は、農学を歴史的背景に有し、その新しい展開として生物資源環境学という学問分野を掲げ、農業生産・自然環境と農業環境、食と健康、さらにはバイオサイエンスとバイオテクノロジーの各学問分野で教育と研究を実践しています。新入生諸君が大学のこのような分野で多くを学び、一生かけてやれると思えることを大学生活の中で見つけてください。高い志を掲げ、夢を持って、夢を実現する方向の第一歩をこの大学で踏み出すのです。



## 野口教授が飯島食品科学振興財団・技術賞を受賞



野口明徳教授（食品科学科）は「押出加工と通電加工の技術開発」という研究課題で、（財）飯島藤十郎記念食品科学振興財団から平成24年度技術賞を受賞しました。本技術賞は、食品科学、特に米麦その他主要食糧を原料とする食品の加工技術、素材、品質、安全性、その他に関する学術上特に優秀な研究業績が認められ、食品の技術開発において優れた業績をあげた研究者または研究グループ（企業研究者を含む）を対象にしたものです（財団HPより抜粋）。

押出加工の研究では二軸同方向回転完全噛み合い型の押出機を設計して、内部の高温高压の条件で、タンパク質がプラスチックのように熔融して変形することを見出し、肉様素材製造の道を開きました。通電加工は食品素材に様々な電流・電圧を流して、その際に発生する発熱、組織損傷、物質移動の現象を利用する技術です。野口教授が開発した両技術は既に様々な企業が利用しており、これらの技術を利用した食品が多くの企業によって製品化されています。

## 学長賞授与

石川県立大学では、継続的に優れた活動を行っている学生及び団体に学長賞を授与しています。平成24年度は、以下の2個人と3団体が賞を授与されました。（写真はビオトープ研究会とスラックライン部の活動の様子です。）

### 生産科学科3年 久保田一輝君

（第42回技能五輪国際大会フラワー装飾部門の日本代表に選出）

### 環境科学科3年 谷内寛之君

（サイエンス・インカレ本選への出場）

### ビオトープ研究会（写真上）

（小松市滝ヶ原地区生物調査等の地域貢献）

### 学生援農隊めぐり

（能登地域民俗行事への継続的参加などの地域活性化の取り組み）

### スラックライン部（写真下）

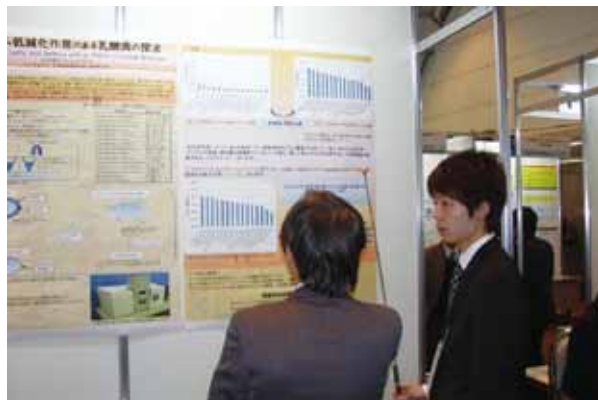
（全国大会での優秀な成績と、指導員としてのスポーツイベントへの支援）



## 谷内寛之君の研究が「サイエンス・インカレ」に採択

環境科学科3年の谷内寛之くんが自主的に進めてきた研究「セシウム低減化作用のある乳酸菌の探求」が文部科学省主催の「第2回サイエンス・インカレ」に採択され、平成25年3月2・3日に幕張メッセ国際会議場で開催された大会において研究発表を行いました。本年度は、全国の大学から応募された研究から、口頭発表47組、ポスター発表98組が採択され、谷内君の研究は「卒業研究に関連しない研究」としてポスター発表部門に選ばれました。

谷内君は当時2年生ということもあり、ポスター形式はもちろん、研究発表を行うこと自体初めての経験でしたが、審査員の温かくも的確な質問にひるむことなく堂々と答えるとともに、他の大学の学生たちと研究を通じての交流を深め、有意義な2日間を過ごしました。また、発表を終えた谷内君は、「サイエンス・インカレに参加し向学心にあふれた大学生と触れ合うことで、さらに深く研究を進めていきたいと強く感じた。これからも研究を続けていくことはもちろん、大学院に進学して学問の世界に踏み込んでいきたい」と興奮した面持ちで感想を語ってくれました。



## 石川県立大学寄附講座の紹介

寄附講座は、企業や財団などから資金的または人的支援を受けて行われる教育研究活動です。本学には法人化後、2つの寄附講座が開設（予定も含む）されました。寄附講座の設置は、本学の研究レベルの高さを反映したものであり、非常に名誉なことでもあります。以下に、その経緯と内容を紹介します。

### アクトリー・エコビレッジ創成学講座（平成24年10月開設）

石川県白山市に本社を置く株式会社アクトリーは、廃棄物処理施設の設計・製造・販売を主とするプラント建設会社です。現在アクトリーでは、廃棄物処理において焼却炉から発生する熱エネルギーを、付加価値の高い（例えば温室を利用するメロンやブドウのような）農産物生産と有機的に結びつけること、すなわち農工連携集約型産業拠点を形成することを考えています。本講座の開設は、この「エコビレッジ構想」の実現を目指したものであり、その研究費は5年間で1億円です。スタッフは水越裕治・寄附講座教授（株式会社アクトリー代表取締役社長）、田中孝二郎・寄附講座准教授（同プラントグループ技術開発室）、廣瀬祐・寄附講座講師の3名で、本学からも研究協力者として8名の教員（加納恭卓・名誉教授；石田元彦・教授；森正之・准教授；竹村美保・准教授；片山高嶺・准教授；片山礼子・准教授；高居恵愛・講師；小木野瑞奈・助教）が参加しています。

### 腸内細菌共生機構学講座（平成25年10月開設予定）

本講座は、武田薬品工業株式会社を母体とする公益財団法人発酵研究所への申請が採択されてできる寄附講座で、全国でも6番目の設置となります。本講座は、腸内細菌とヒトの共生を、腸内細菌が産生しヒトに影響を与える、また、ヒトが生産し腸内細菌に影響を与える低分子化合物（シンビオジェニック因子と命名しました）を通して理解すること、またそれを基により良い共生を成立させる方法論を開発することを目的としています。研究費は5年間で2億5千万円、スタッフは片山高嶺・寄附講座教授（現石川県立大学准教授）および栗原新・寄附講座准教授（現テキサス大学訪問上席研究員）を予定しています。

## 金沢大学及び野々市市との協定締結

大学間交流に関する包括協定締結式



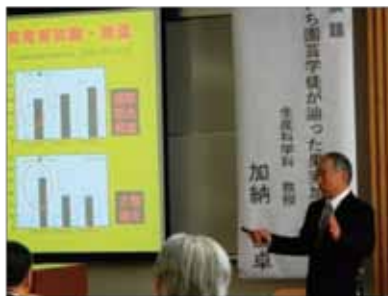
平成24年12月17日、教職員と学生の交流、共同研究・セミナー、協働の社会貢献事業の実施等について包括的に連携・協力する「大学間交流に関する包括協定」を金沢大学と締結しました。また、平成24年12月21日には、産業振興と環境、教育・

研究、地域コミュニティの発展において相互に連携する「包括連携協定」を野々市市と締結しました。

## 平成24年度プロジェクト研究実績発表会

平成25年3月7日に、平成24年度プロジェクト研究実績発表会が開催されました。若手研究プロジェクト4題（ブラシノステロイドとジャスモン酸のクロストークに関する研究、植物病原菌分泌性タンパク質の機能解析、和牛を畜舎と放牧で飼養する場合のストレスの比較、柿未成熟果実の品種間における高コレステロール血症予防効果）をはじめ、教育改善プロジェクト3題、学科等が企画するプロジェクト4題、地域貢献プロジェクト6題、全学研究プロジェクト1題、萌芽的挑戦研究プロジェクト2題、合計20題の研究成果が発表されました。

## 最終講義



平成25年2月28日、本学第1大講義室において、松野前学長と加納教授の最終講義が行われました。加納教授は「いち園芸学徒が辿った果実加温の軌跡」と題して、本学での研究成果を振り返りました。松野前学長は、本学での8年間で「石川の美しい自然、永い歴史から醸し出された優れた文化・食文化、心優しい人々に囲まれた、充実した8年間」であるとし、大学運営から野々市での生活までを振り返りました。

また「積極的な謙虚さを持って一途に」、「自分自身より優れた人材を一人でも多く輩出することを目指して教育研究を」、「日本の将来を託す若者を育てることに誇りを持って」とのメッセージで講義は締めくくられました。

## 親子体験講座「ひつじを知ろう!楽しく学ぼう!」



平成25年2月23日、神保郁乃さん、川端伸君、直山陸君（ともに生産科学科3年）、坂本七海さん（環境科学科3年）が企画し、野々市公民館との共催による、親子体験講座「ひつじを知ろう!楽しく学ぼう!」が開催されました（写真左。また、学生の学年は現在のものです）。参加者はクイズ形式で羊について学び、フェルトボールづくりに挑戦。県立大学の羊たちのことも知ってもらえる良い機会となりました。右の写真は本学で飼育している羊の毛刈りの様子です。



## 新任教員の紹介



生産科学科  
蔬菜園芸学研究室 教授 村上賢治

研究テーマ：野菜の形質改良、特性評価および新しい生産システムの開発  
メッセージ：野菜の生産性や品質を高めるために様々な角度からの研究開発を行い、地域の園芸産業に貢献していきたいと思っております。



教養教育センター  
教育学研究室 准教授 石倉瑞恵

研究テーマ：民族復興運動期以降のチェコ大学史及び現代のチェコ高等教育改革  
メッセージ：教育学とは、人間のあり方と人間形成における大いなる可能性を探る学問です。自然を操作するのがその人間であることを考えれば、生物資源環境学部で学ぶ学生諸君にとって決して縁遠い学問ではありません。教育学を学び、ぜひ自らの研究への奥行きとしてもらいたいと思います。

# 平成24年度卒業生の進路

就職希望者98名のうち、97名が内定しました。また、進学等を含む全体の進路決定率は99%でした。

## 各学科の進路例：

**生産科学科**：民間企業（JA 共済連石川県本部、JA 白山、六星等）、官公庁（石川県庁、金沢市）等、大学院進学（県立大学、東北大学等）

**環境科学科**：民間企業（JA 全農いしかわ、トスマク・アイ、中央設計技術研究所等）、官公庁（石川県警、静岡県高等学校教員等）、大学院進学（県立大学、名古屋大学等）

**食品科学科**：民間企業（佃食品、スギヨ、アルプ等）、官公庁（石川県警）、大学院進学（広島大学、三重大学）

## 入試結果

### 一般入試

区分	学科	募集人員 (人)	志願者数 (人)	志願倍率 (倍)	受験者数 (人)	受験倍率 (倍)	合格者数 (人)	実質倍率 (倍)
前期 日程	生産科学科	22	101	4.6	98	4.5	31	3.2
	環境科学科	22	87	4.0	84	3.8	34	2.5
	食品科学科	22	72	3.3	68	3.1	32	2.1
	計	66	260	3.9	250	3.8	97	2.6
後期 日程	生産科学科	10	174	17.4	61	6.1	16	3.8
	環境科学科	10	111	11.1	45	4.5	14	3.2
	食品科学科	10	63	6.3	29	2.9	17	1.7
	計	30	348	11.6	135	4.5	47	2.9
	合計	96	608	6.3	385	4.0	144	2.7

### 推薦入試

区分	学科	募集人員 (人)	志願者数 (人)	志願倍率 (倍)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	実質倍率 (倍)
推薦 入試 A	生産科学科	6	15	2.5	15	6	2.5
	環境科学科	6	9	1.5	9	5	1.8
	食品科学科	6	21	3.5	21	7	3.0
	計	18	45	2.5	45	18	2.5
推薦 入試 B	生産科学科	2	2	1.0	2	1	2.0
	環境科学科	2	0	-	-	-	-
	食品科学科	2	1	0.5	1	-	-
	計	6	3	0.5	3	1	3.0
	合計	24	48	2.0	48	19	2.5

### 大学院第1次入試

区分	専攻	志願者数 (人)	一般 (人)	社会人 (人)	留学生 (人)	志願倍率 (倍)	受験者数 (人)	合格者数 (人)
前期 課程	生産科学	3	3	0	0	0.4	3	3
	環境科学	8	8	0	0	1.0	7	6
	食品科学	0	-	0	0	-	-	-
	応用生命科学	3	3	0	0	0.3	3	3
	計	14	14	0	0	0.4	13	12
後期 課程	自然人間共生	0	-	-	-	-	-	-
	生物機能開発	0	-	-	-	-	-	-
	計	0	-	-	-	-	-	-

### 大学院第2次入試

区分	専攻	志願者数 (人)	一般 (人)	社会人 (人)	留学生 (人)	受験者数 (人)	合格者数 (人)
前期 課程	生産科学	0	0	0	0	-	-
	環境科学	3	3	0	0	3	3
	食品科学	0	0	0	0	-	-
	応用生命科学	0	0	0	0	-	-
	計	3	3	0	0	3	3
後期 課程	自然人間共生	2	2	0	0	2	2
	生物機能開発	0	0	0	0	-	-
	計	2	2	0	0	2	2

## 大学の今後の動き

### 1. オープンキャンパス：8月3日（土）

今年度の特徴は、学生と院生による大学紹介です。それぞれの所属する研究室の現在進行している研究を紹介します。他に、ミニ講義・ミニ実験と入試説明会、進路相談等があります。

### 2. 平成26年度入試

3年次編入学試験：8月30日（金）

大学院入学試験：8月30日（金）及び31日（土）

推薦入試：11月16日（土）

### 3. 第9回響緑祭（大学祭）：10月26日（土）及び27日（日）

### 4. ホームカミングデイ：10月26日（土）

同窓生と在校生の親睦・交流を深めるために、響緑祭初日に、本学で第1回目の「ホームカミングデイ」を開催します。

## << 編集後記 >>

IPUニュース16号をお届けします。石川県立大学として9年目に入ります。守るべき経験・伝統をもとに新しく築いていく希望の芽が育っています。このニュースをお読みの皆さんには、上り坂の日々新しい大学の情報をお伝えしていきます。

石川県立大学広報委員会